

肝炎治療受給者証の交付申請に係る診断書(インターフェロン治療)

フリガナ			性別	生年月日(年齢)	
患者氏名			男・女	年 月 日生	(満 歳)
住所	〒 - 電話番号 () -				
診断年月	年 月	前医 (あれば記載する)	医療機関名 医師名		
過去の治療歴	該当する項目にチェックする。 1. インターフェロン治療歴 あり なし (ありの場合は、裏面を記入してください。) 2. インターフェロンフリー治療歴 あり(薬剤名:) なし 直前の抗ウイルス治療がインターフェロンフリー治療である(中止(不耐用)・再燃・無効) 治療期間 週 (年 月 ~ 年 月)				
検査所見	今回のインターフェロン治療開始前の所見を記入する。				
	1. C型肝炎ウイルスマーカー(検査日: 年 月 日) (1) HCV-RNA定量 _____ Log IU/mL(測定法:リアルタイムPCR) (2) ウイルス型(該当する方を で囲む) セロタイプ(グループ)1 あるいはジェノタイプ1 ・ セロタイプ(グループ)2 あるいはジェノタイプ2				
	2. 血液検査(検査日: 年 月 日) AST _____ IU/l(施設の基準値: _____ ~ _____) ALT _____ IU/l(施設の基準値: _____ ~ _____) 血小板数 _____ / μl(施設の基準値: _____ ~ _____)				
3. 画像診断及び肝生検などの所見(具体的に記載) (所見) _____ (検査日: 年 月 日)					
診断	該当番号を で囲む 1. 慢性肝炎(C型肝炎ウイルスによる) 2. 代償性肝硬変(C型肝炎ウイルスによる)				
肝がんの合併	肝がん 1. あり 2. なし				
治療内容	該当番号を で囲む。 1. インターフェロン 製剤単独 2. インターフェロン 製剤単独 3. ペグインターフェロン製剤単独 4. インターフェロン 製剤 + リバビリン製剤 5. インターフェロン 製剤 + リバビリン製剤 6. ペグインターフェロン製剤 + リバビリン製剤 7. その他 (具体的に記載してください: _____) 治療予定期間 週 (年 月 ~ 年 月)				
導入治療を行う医療機関	医療機関名				
導入治療後の治療を行う医療機関	導入治療を行う医療機関と同じ 導入治療を行う医療機関以外の医療機関 医療機関名: _____				
治療上の問題点					
医療機関名及び所在地 _____ 記載年月日 年 月 日 (直前の抗ウイルス治療がインターフェロンフリー治療である場合、以下のいずれかにチェックが必要) 日本肝臓学会肝臓専門医 熊本県認定肝臓病医療支援システム指定高次専門施設の担当医 熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会の肝臓病認定医 (熊本県肝炎インターフェロン治療指定医療機関に勤務し、診断書作成医として登録している医師に限る) 医師氏名 (指定の診断書作成医) _____					

審査会委員
チェック欄要
確
認

- (注) 1. 診断書の有効期間は、記載日から起算して3か月以内です。
 2. 検査所見は、記載日前6か月以内(ただし、インターフェロン治療中の場合は治療開始時)の資料に基づいて記載してください。3. 記入漏れのある場合は認定できないことがあるので、ご注意ください。
 4. 本診断書は熊本県肝炎インターフェロン及びインターフェロンフリー治療指定医療機関が発行することとする。

過去のインターフェロン治療の実施歴

過去の3剤併用療法の治療歴(いずれかにチェック)	3剤併用療法(ペグインターフェロン、リバビリン及びプロテアーゼ阻害剤)の治療歴なし。 3剤併用療法を受けたことがあるが、副作用等により十分量の24週投与を投与が行われなかった。 (具体的な経過・理由:) 「十分量の24週投与が行われなかった」にチェックが入った場合、経過・理由をもとに審査を行います。 3剤併用療法を受けたことがある。(十分量の24週投与が行われた)
--------------------------	--

【直近の治療実施歴】

実施時期	年 月
実施医療機関	導入治療を行った医療機関名 () 導入治療後の治療を行った医療機関名 ()
実施時の診断	該当番号を で囲む 1.慢性肝炎(C型肝炎ウイルスによる) 2.代償性肝硬変(C型肝炎ウイルスによる)
治療の内容	該当番号を で囲む。 1.インターフェロン 製剤単独 2.インターフェロン 製剤単独 3.ペグインターフェロン製剤単独 4.インターフェロン 製剤+リバビリン製剤 5.インターフェロン 製剤+リバビリン製剤 6.ペグインターフェロン製剤+リバビリン製剤 7.ペグインターフェロン製剤+リバビリン製剤+テラプレビルによる3剤併用療法 8.ペグインターフェロン製剤+リバビリン製剤+シメプレビルによる3剤併用療法 9.その他(具体的に記載してください。()) 治療期間 週 (年 月~ 年 月) 上記治療内容が「6.ペグインターフェロン製剤+リバビリン製剤」の場合、以下について該当するものがある場合はにチェックを入れる。 これまでの治療において、十分量のペグインターフェロン及びリバビリン併用療法の48週投与を行ったが、36週目までにHCV-RNAが陰性化しなかったケースではない。 これまでの治療において、ペグインターフェロン及びリバビリン併用療法による72週投与が行われたケースではない。
3剤併用療法の再治療について	上記治療内容が7.3剤併用療法に該当する場合はチェックが必要。 3剤併用療法の治療歴があるが、他のプロテアーゼ阻害剤を用いた3剤併用療法による再治療を行うことが適切であると判断する。
転帰	終了【再燃・無効・不明】 中断(理由:)
特記事項	

【上記以外の治療歴】 ある場合は記載してください。

実施時期	年 月
実施医療機関	導入治療を行った医療機関名 () 導入治療後の治療を行った医療機関名 ()
実施時の診断	該当番号を で囲む 1.慢性肝炎(B型肝炎ウイルスによる) 2.慢性肝炎(C型肝炎ウイルスによる) 3.代償性肝硬変(C型肝炎ウイルスによる)
治療の内容	該当番号を で囲む。 1.インターフェロン 製剤単独 2.インターフェロン 製剤単独 3.ペグインターフェロン製剤単独 4.インターフェロン 製剤+リバビリン製剤 5.インターフェロン 製剤+リバビリン製剤 6.ペグインターフェロン製剤+リバビリン製剤 7.その他(具体的に記載してください。()) 治療期間 週 (年 月~ 年 月)
転帰	終了【再燃・無効・不明】 中断(理由:)
特記事項	